

日本藻類学会第42回大会ワークショップI「藻類採集会 in 石巻」参加記

山本茉奈

2018年3月26日、日本藻類学会第42回大会にてワークショップI「藻類採集会 in 石巻」が開催された。私は今大会が初めての学会参加で、他大学の学生・研究者・企業の方と一緒にサンプリングに行くというのも初めてだったので、不安はあったのだが結果としてとても刺激的で実りのある採集会となった。時間の関係で採集後の観察会等が無かったのは少し残念ではあったが、その分採集の時間を十分にとることができた。

当日は朝6時半に東北大学から石巻に向けて出発した。移動中はもっぱら藻類の話で盛り上がった。今回の参加者は大型藻類を研究している人が多かったため、普段渦鞭毛藻類を扱っている私は話を聞けばかりであったのだが、自分の研究対象だけでなく藻類についてもっと幅広く勉強したいと思える良いきっかけとなった。一口に藻類といってもさまざまな研究テーマがあり、改めて藻類学の奥深さを感じられた。

到着後、磯歩きチームと乗船チームに分かれ、磯歩きチームは狐崎浜での採集、乗船チームは狐崎浜の北東部に位置する桂島でのSCUBA採集を行った。到着時の潮位は高めであったが、天候に恵まれ各々が自由に目的の藻類を採集した。私自身は研究テーマとしている多毛類寄生性渦鞭毛藻類の採集のため、東北大学の伊藤浩吉さんと鈴木李奈さんに協力していただき、乗船チームの採集終了後に別で船を出してもらって採集を行うことができた。

採集後、シーパルピア女川に移動して昼食をとった。道中、高く分厚い防潮堤がずらりと並ぶ様子や津波によって更地になった土地、高台にある真新しい建物などが散見され、東日本大震災の被害の大きさと今現在の復興の状況を知ることができた。特に女川町は復興のトップランナーと称されるように、訪れた観光客に楽しんでもらおうという明るい雰囲気が



シーパルピア女川での集合写真



乗船チームのみなさん

感じられた。また宮城県を訪れる機会があれば、今度はもっとじっくり観光してみたいと思う。

東北大に戻り、いったん解散となった。私は残って採ってきたサンプルのソーティングをすることにした。ソーティングが3分の2ほど終了した時点で私が採りたかったタケフシゴカイは見当たらなかったのだが、帰りの飛行機の時間が迫っていたため泣く泣く作業を中断し、かなり落胆しながら札幌に帰ることになった。しかし翌日に残りを全て調べると、幸運なことに二匹のタケフシゴカイの断片が含まれており、さらに幸運なことにそのうち一匹には目的の渦鞭毛藻が多数寄生していた。これには研究材料が得られた喜びに加え、協力していただいた皆さまに良いご報告ができるとほっと胸をなで下ろす思いであった。

最後に、参加者それぞれが目的に合わせて採集できるよう本ワークショップを企画してくださった東北大学の青木優和先生をはじめ、当日船を出してくださった平塚秀正さん（宮城県漁業協同組合石巻市東部支所）、採集にご協力いただいたすべての皆さまにこの場を借りて感謝の意を表する。

(北海道大学大学院)